

『日本経済新聞』2001年3月10日夕刊 (←朝刊なら「朝刊」を追加)

オンライン書店各社は順調に売り上げを伸ばしている。ブックサービス(東京・文京、木村傑社長)の今年一月の受注冊数は約十二万二千冊。三年前の九倍だ。二〇〇一年三月期の消費額が約三十二億九千万円に達する見込み。一九九六年に参入した紀伊国屋書店は「千五百円の人件費が必要だが、会費が毎月四千円ずつ増えている」(ネットビジネス部の小沢部長)。二〇〇一年八月期の年商は四十億円を計画する。

書籍市場で1%超す

二〇〇〇年の出版市場全体が四年連続前年割れとなるのに、オンライン書店が伸びるのには理由がある。ブックサービスの木村社長によると「書店に欲しい本がないから」。和書は約五十五万点が流通するといわ

目的の本、探しやすい

のシェアは約九千七百五億円の書籍市場(出版科学研究所調べ)の「1%を超えた」(業界関係者)模様。一方で、競争が激化し、再編の兆しが出てきた。丸善は五年に参入した丸善はブックワンに一月に資本参加。得意の外商に特化し、消費者向けオンライン書店は縮小する。多額の広告費を投入した別のオンライン書店は売り上げが伸びずシステム投資などを回収できずにいる。「オンライン書店は自然淘汰(とうた)され数社しか残らない」(出版取次会社社長)との見方もあり、合従連衡の波が押し寄せる可能性もある。

オンライン書店の売り上げ増
ブックサービス 受注冊数9倍
32.5億円 2001年3月期

紀伊国屋書店
40億円 2001年8月期

書店に欲しい本がない

書籍市場の1%

丸善
ブックワンに資本参加。
オンライン書店は縮小

オンライン書店は淘汰へ

『日本経済新聞』2001年3月10日夕刊

コメント (←意見や疑問)

ネット書店の競争激化
既存書店の売上が少ない。あるいは撤退。

注意：用紙はA4 (またはA3) のみ。コピー濃度を薄くしてコピーを取る。

更新日：2004年5月26日